

公益社団法人日本青年会議所
会 頭 選 挙 管 理 委 員 会
委 員 長 荒 尾 政 弘 殿

一般社団法人浪江青年会議所
理 事 長 前 司 昭 博

立候補推薦文

「軌跡を紡ぎ、帰籍を願い、奇跡を起こそう！」は、石田全史君が2012年に理事長を務めた時のスローガンであります。2011年3月11日の東日本大震災と原発事故により、私たちは避難生活を余儀なくされました。故郷に戻れず、社業もままならない中、避難先においてLOMのメンバーが集い、解散か休会の選択の中、青年会議所を故郷から無くしてはいけないと石田全史君がLOMの存続のために、2012年の理事長に立候補しました。彼は避難先に家族を残して、一早く社業を再開させ社員の生活を守り、先の見えない故郷の復興に対して大きな夢を描く青年として、最前線に立ちました。意見書の「おわりに」の部分に、東日本大震災の教訓として、人の命の尊さ、故郷の大切さ、復興はそこに住む人びとの使命であるということが記載されています。私たちから、前を向いて、故郷の復興に向けて歩みを進めることが、私たちの故郷の復興の軌跡となり、ひいては日本の復興につながると確信しています。彼のこの切なる想いによって、東日本大震災からの浪江青年会議所の新たな歴史がはじまりました。故郷と浪江青年会議所の未来を大きな夢に描いて率先して行動した彼は、どんな苦難や困難の中でも未来を切り拓く力を持っています。

石田全史君は、2004年の入会以来、15年間LOMだけでなく、出向先で出会った方々から、成長につながる貴重な経験をいただき、LOMと故郷に還元してまいりました。2012年に理事長として、復興の最前線に立ちLOMを率いる統率力を発揮し、2015年には、国際協力関係委員会の委員長として、世界の中の日本の立ち位置や重要性を学び、2016年、2017年には、ブロック会長、地区担当常任理事として、LOMと運動を広げることに挑戦し、東北地区内メンバーの信頼を築いてきました。2018年には専務理事を務め、組織運営を学ぶ機会をいただきました。本年度は、会頭鎌田長明君が掲げる、共に心躍る未来へ「やりましょう！」のスローガンのもと世界中を駆け巡り、世界と日本をつなぐ副会頭として、成長の機会をいただいております。

青年会議所運動を通して、貴重な体験から成長してきた彼は、ご縁を大切にし、ご恩に報いるよう日本青年会議所の新たな可能性を生み出すために、最前線に立ちました。未来を切り拓く力を持って、運動を展開するに違いありません。東日本大震災より9年目を迎えています。復興は道半ばではありますが、浪江青年会議所全力を持って石田全史君を支えてまいる所存です。石田全史君を公益社団法人日本青年会議所2020年度会頭候補者として推薦いたします。全国の青年会議所メンバーの皆様には石田全史君へのご支援のほど、

お願い申し上げます。